



## 山の学校につなぐ夢

気温の変化が激しくて季節を錯覚しそうですが、気がつけば小中学校は秋休み。前期の成績をもらうのが初めての中1はちょっとドキドキでしょうし、成績が入試に直結する中3は冷静に受け止めて次の行動を考えなければなりません。ちょっと落ち込んでしまう人もいるかもしれませんが、そんな時、成績だけではなく本来の勉強する意味を気づかせてくれる番組がありました。

9月9日にNHKのEテレで放映されたETV特集「アフガニスタン・山の学校の記録～マスードと写真家長倉洋海の夢」です。およそ150人の生徒が学ぶアフガニスタンの標高2500mの山あいにある「パンシールポーランド学校」はアフガニスタンの英雄マスードが、「国の復興をするのは子どもたちだ。戦争が終わってから教育をしたのでは遅い。今からしなければならぬ。」という思いで作りました。彼の死後、その思いを継いでこの学校を支援してきたのが長倉洋海（ひろみ）さんです。今も教室が足りず、コンテナやテントを教室として使ったりしていますが、たとえ設備が貧しくても遠くの村々から通う子どもたちは学ぶ意欲にあふれています。勉強する意味をストレートに語りかけるマスードの言葉「祖国の空は私たちの宝物。戦争はやがて社会を壊す。勉強は新しい世界を開く。」がこの学校に通う子どもたちの瞳を輝かせています。この山の学校を卒業して大学で法律の勉強をしながら教師として教えている女性や、山の学校で勉強する意味と楽しさを知り、遠くの高校に通いながら農業技術者を目指す男性などを長倉さんは毎年訪ねています。

中3の国語の教科書には長倉さんの写真と文による「エルサルバドルの少女」というノンフィクションが載っています。ここでも中米の紛争地域の難民キャンプで育ちながら常に笑顔を決やさずに生きてきた少女「ヘスース」を温かいまなざしで伝えています。実は数年前にもこの通信で、私の高校の先輩として紹介しました。塾に置いてある教科書にはご本人のサインをいただいています。中学生だけではなく大人にもぜひ読んでもらいたい作品です。